

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	薬事衛生課長 柳 俊徳	電話番号	0852-22-5257
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	医療従事者確保対策事業		
目的	(1) 対象	薬剤師	
	(2) 意図	本県内の医療機関及び薬局の希望を満足する数の薬剤師を確保する。	
事業概要	高校生等を対象としたセミナー事業を実施して薬科大学への進学者を後押しする等、本県出身の薬剤師を育成する。各薬科大学を訪問して本県での就職への支援を依頼する等、本県で就業する薬剤師を確保する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	県病院における薬剤師の不足数	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	人
	式・定義	県内各病院へのアンケート調査結果	実績値	42.5				
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名	薬局における薬剤師の不足数	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	人
	式・定義	各薬局へのアンケート調査結果	実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,522	1,900
うち一般財源 (千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

平成26年度の薬剤師調査(2年毎に実施)において、人口10万人当たりの薬局・医療施設に従事する薬剤師数が全国平均170.0人のところ本県は156.0人であり、都道府県別順位で31位である。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

東部と西部、計2か所で開催したところ、91名の参加があった。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
思うように薬剤師が採用できないという病院、薬局が多い。
- ②困っている状況が発生している「原因」
薬剤師の需要に対して供給が追いつかない状態が続いていると思われる。
- ③原因を解消するための「課題」
本県で就業する魅力の周知

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

本県から薬科大学へ進学する者を増加させる。
本県出身者を中心に、薬科大学の学生の本県での就業を推進する。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)